

平成二十三年年度 小論文試験

次の文章を読み、問いに答えなさい。

受験番号
氏名

仮定の場合に、「もし雨が降るなら、休みにします」と現在形を使って言うこともできます。しかし、普通は「もし雨が降ったら」と過去形を使う。「雨が降れば」とも言います。この場合、「降れ」という形は、本来、ものがすでに成り立っていることを示す已然形です。だから「降ったら」に近い、「降るなら」と言うと、自然の成り行きで雨が降るように聞こえて、なにか引つかかるところがない。ただそれだけという感じがします。一方、「降ったら」と言えば、「降った」というのは確実な事実として認識されますから、まずそれを確立しておく。事実として確定しておいて、それに未然形「ら」を付けることで、逆転させてはつきりと①カソウの意味合いを印象づけるわけです。さらに、過去の事実と反する仮定を言うときには、二つ過去を重ねて「降ったのだった」と言います。また、「あのとき雨が降っていたら、行くはずないじゃないか」とも言います。この場合の「降った」の「て」は、もとをたずねると昔の助動詞「つ」の連用形なのです。こゝでも「て」と「た」と二重になっています。つまり、過去の事実と反する仮定を言うときは、「た」を一度繰り返して「たて」を繰り返して使うのだと思います。

時をどう把握するか、把握の仕方はそれぞれの言語で相異します。また一つの言語の中でも時代によって変化します。ヨーロッパ人は時を客観的な長さを持つと見たらしく、過去と現在では明確に区切りをつけて把握し、それを表現するらしい。ところが日本語では時を②的にとらえていました。だから日本語では、未来とは「話し手の③バックゼン」とした予想とが推測でした。「雨降らむ」といえば、未来であるよりは予想です。また過去については「話し手の確かな記憶がある」とときには「き」を使い、今気がついたこと、つまり「気づき」を表わすときには「けり」を使って区別しました。

雨降りき(雨が降った)「コトガ記憶ニタシカニアル」

と記憶にあることには「き」を使い、すでに起こったことであると今になって気づいたときには、

雨降りけり(雨が降った)「ト今気ガツイタ」

と「けり」を使いました。現在、「明日は東京へ行く日だっけ」と言いますが、この「け」は「に」いう「けり」の子孫で、「気がついてみると、だ」ということを表わします。

現在では過去を表わすには「た」を使います。

雨が降った

これが代表的な使い方です。ところがこの「た」は、(探していたものが) ああ、ここにあった、あったとも使い、

ああ驚いた。

とも使う。これは過去のことではなくて、現在の目の前のことです。「あった、あった」の「た」は確認とも見られますが、気づきとも見られます。「ああ驚いた」の「た」は現在でも驚きの感情が持続していることを示しています。つまり「た」は、④「Jones」の過去にも、現在の確認にも、気づきにも、持続にも使うわけです。それはどうしてか。

古文の表現法では、時に限らず現在よりもっと表現法が豊富だったのです。

雨降りき(雨が降った記憶ガアル)……記憶

雪降りけり(雪が降ったコトニ気ガツイタ)……気づき

雨もやみぬ(雨モスデニ止ンデイル)……完了(自動詞につく)

野島は見せつ(ステニ野島ハ見セタ)……完了(他動詞につく)

梅の花咲けり(梅ノ花ガ咲イデイル)……完了持続

月は照りたり(月光ハ皎々(こうこう)ト照ンデイル)……完了持続

このように六種もあって、使い分けていましたが、中世の④「コララ」期に言語の⑤「キハ」を守る意識がゆるみ、この六つのうち、五つが次第に使われなくなり、一つだけ「たり」が残ったのです。さらにこの「たり」の「り」が落ちて現在の「た」が成立しました。ですからこの「た」は、時について、すでに亡びてしまった表現法が以前区別していた、⑥「気づき」が落ちて現在の「た」が成立したのです。その結果、「あ」を感じて、明治時代以後に「てしま」があるいはそこら約(つま)った「ちまう」を使い出しました。「壊してしまった」とか、「やっちゃえ」などがその例です。私たちが「た」を「過去形」と考えてしまっているのは、英語教育のせいなのかもしれません。英文法の授業で過去形や未来形という区別の仕方を習うので、その形式に合わせて「行った」の「た」は過去だけなのだと思ってしまう。すると、過去形が「あった、あった」のように現在に使われているのは変ではないか、という問題意識が現われて来る。

「ああ驚いた」の場合は「驚いている」の意味で、これも過去を表わしているわけではありません。現在のことを言っているのです。現代日本語の「た」は、過去のこととして記憶にあるということ、今気がついたということ、今も確かにその状態にあるということ、それらの意味を併せて表現する形なんです。

大野 晋 『日本語の教室』(抄)

問一 本文中の①から⑤の語句を漢字で書きなさい。

問二 ① および② にあてはまる言葉として最も適切なものを一つ選び、その数字を書きなさい。

- ① 観念 ② 概念 ③ 情緒 ④ 主観 ⑤ 連続
① 経験 ② 予想 ③ 記憶 ④ 仮定 ⑤ 推測

問三 次の「た」のうち、古語「き」の意味を有しているものを一つ選び、その数字を書きなさい。

- ① 「食事はもう済ませた。」 ② 「喉が渴いた。」 ③ 「宿題はすでに終わった。」
④ 「ようやく晴れた。」 ⑤ 「昨日、映画館に行った。」

問四 日本語における仮定の表現法について120字以内でまとめなさい。

問五 日本語では現在のことに対して過去形「た」を用いる場合がある。その理由について、自ら考えた用例を示しつつ350字以上400字以内でまとめなさい。



平成二十三年年度 小論文試験

次の文章を読み、問いに答えなさい。

受験番号
氏 名

個体性の認識の基本になるものは、自意識の確立である。チンパンジーの自意識をためすためにギャラップがおこなった、鏡のテストは有名である。彼は、チンパンジーの額に赤い印をつけて鏡を見せた。もし、チンパンジーが鏡に映った姿を自分の仲間と思い、額についた赤い印に①キヨウミを示せば、鏡の赤い印にさわってみるかもしれない。けれども、鏡に映っているのが自分の姿だと思えば、そのチンパンジーは自分の額に手をやってみるかもしれない。実際にためしてみると、チンパンジーは自分の額に手をやったのである。チンパンジーは、鏡に映っているのが自分の姿だということを知っていることになる。鏡のテストのほかにも、②意図的欺瞞と呼ばれる行動でも、チンパンジーが自意識をもっていることが示されている。これは、ある個体が別の個体にわざと嘘をつく行動をとるかどうかということである。他の個体をだますには、自分の行動が他の個体にどのように見えるかということに③スインクできなければならない。そのためには自意識が必要である。

ブローイユがタンザニアのゴンベ・ストリームで次のような例を観察している。一頭の雄のチンパンジーがいたときに、バナナの入っている電気じかけの箱の蓋が開いた。そこへもう一頭のチンパンジーが入ってきた。最初のチンパンジーは、急いで箱の蓋をしめて、何喰わぬ顔であたりを歩き回った。あとから入ってきたチンパンジーの姿が見えなくなると、最初のチンパンジーはバナナの入った箱の蓋をあけて、バナナを取り出した。ところが、何と、二頭めのチンパンジーは物かげにかくれていただけであって、そこを立ち去ってはいなかったのである。

このような例は、ほとんどがチンパンジーにだけ見られるものであって、他の④ルイジンエンではまれであるとされている。鏡のテストでもオランウータンには自意識のあることが認められたが、ゴリラにはないらしいとされた。

ピアジェは、ヒトの幼児の思考の「自己中心性」を研究した。ピアジェのいう自己中心性は、「すべてを自分に結びつけること」すなわち自己視点への⑤ゴシツを意味している。幼児期には、すべてのものを自分の視点に結びつけ、無差別に置きかえてしまうため、自己という区別はあるが他者という認識がない。ピアジェの研究は⑥センクテキではあったが、六歳までの幼児には現実と頭のなかで考えたものとの区別ができないという彼の結論は、現在では否定されている。

最近の研究によると、幼児は一歳半になると、目の前にある現実以外の状況を頭のなか思い描くことができるということがわかっていく。一歳半の幼児は、箱の中にオルゴールが入っていれば、その音を聞いてオルゴールが入っていることを想像することができる。

幼児が何かの「振りをする」能力に最初に気がついたのもピアジェであった。彼は、この能力は、幼児がシンボルを使う能力を獲得したことを示すと考えた。しかし、バーナーは、ピアジェとはちがって、幼児の「振りをする」能力は、ただ単にその子供が想像することのできるもう一つの世界を表現しているに過ぎないという。

子供が一歳になると、自分のしたいと思うことと他の人のしたいと思うことを区別して考えることができるようになる。ここで、心の個性性が芽生えてくるのである。けれども、二歳、三歳の子供では、自分の目に見える現実と他の人の目に見える現実のあいだの区別はまだはっきりと確立されていない。他の人が自分とは違うことを考える場合があるということをはっきりと認識するのは、四歳になってからである。

この三歳の子供と四歳の子供のちがいは、学習とか経験によるものではなく、子供が四歳になったときに確立する特別な能力である。このような能力の確立には言葉が重要な働きをすることは多くの研究者が認めるところである。しかし、その能力の確立自体は、子供の発達の特異な一段階とみなすべきものであり、正常な発育をするすべての子供がほとんどおなじ時期にこの能力を獲得する。子供の発達において、この時期がほんとうの意味での自己の確立の時期とみてよいのではなからうか。

柳澤桂子著 『われわれはなぜ死ぬのか』(抄)

問一 本文中の①～⑤の語句を漢字で書きなさい。

問二 傍線部④「欺瞞」の読みを書きなさい。また、その意味を20字以内で書きなさい。

問三 傍線部④「意図的欺瞞」を行なった主体はどれか。次のうちから選びその記号を書きなさい。

- ア 最初に入ってきたチンパンジー
- イ 後から入ってきたチンパンジー
- ウ 両方のチンパンジー
- エ オランウータン
- オ 両方のチンパンジーとオランウータン

問四 子供の自己が確立するどのような事を認識することができるか。30字以内で書きなさい。

問五 子供が自意識を確立するまでの過程について、あなた自身の経験や見聞を交えて350字以上400字以内でまとめなさい。

